BERNINA

BERNINA 215

www.bernina.com

BERNINA

このたびは、ベルニナミシンをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。私共はミシン作り１００年を越える歴史を通じて、お客様一人一人に満足していただくことを最大の目標にしてまいりましたが、今現在も尚、スイスの優れた伝統技術、未来志向のソーイング・テクノロジー、そして他に類を見ないほど行き届いたサービスをお届けすることを常に心がけています。

今回お届けするベルニナ･アクティバ215は、お客様皆様の個々のニーズに対応できる、かつてない、新しいタイプのミシンです。

いろいろなミシン用付属品に加え、実用的でオリジナルなアイデアを満載して発行されるベルニナのソーイングマガジンなども、必ずや皆様にご満足いただけるものと確信しております。

それでは、ベルニナミシンでクリエイティブなソーイングを、心ゆくまでお楽しみ下さい。

“Welcome to the BERNINA family”

H.P. ウルチ
代表取締役社長
ベルニナミシン株式会社

BERNINA International AG. CH-8266 Steckborn/Switzerland

安全にご使用いただくために

当製品のご使用にあたっては、電化製品を使用する際の一般的な順守事項に加えて、以下の注意事項を必ずお守り下さい。

ご使用の前には必ず説明書をご一読の上、操作方法を十分理解してからご使用下さい。

当製品をお使いにならない時は、電源プラグをコンセントから外しておいて下さい。

危険！

感電の恐れがあります。
次の注意事項をお守り下さい。

1. プラグをコンセントにつないだままで、ミシンから離れないで下さい。
2. ご使用後、またはミシンの掃除をする際には、必ずプラグをコンセントから抜いて下さい。
3. LEDからの放射線：LED光がレンズなどを通して直接目に入らないようにご注意ください。LEDクラス1M。

警告！

火傷、火災、感電およびケガの原因になります。次の注意事項をお守り下さい。

1. この説明書に従ってご使用下さい。また、ベルニナ社がお薦めする純正の付属品・別売りアクセサリーのみをご使用下さい。
2. おもちゃとして絶対に使わないで下さい。また、小さなお子様や障害のある方の近くでのご使用時は、特別の注意を払って下さい。視覚障害、知覚障害、又は精神障害のある方、経験や知識のない方は安全にご使用いただくための責任を持てる方のご指導又は監督の無い限りはこのミシンをお使い戴けません。お子様がミシンで遊ばないように十分監督して下さい。
3. 次のような場合には、絶対に当製品を使わないで下さい。
   - 電源コードやプラグに損傷のある場合。
   - ミシンが正常に作動しないとき。
   - 落としたり、損傷したとき。
   - 水の中に落としたとき。

   このような場合には、お近くのベルニナ正規販売代理店に、ミシンの点検、修理、調整をご依頼下さい。
4. ミシンの通気孔をふさがないで下さい。また、ミシ

ンの通気孔に糸くずやほこり、布きれが詰まった状態で使わないで下さい。
5. 操作中は、動く部品に指を近づけないで下さい。特に針の回りでは、細心の注意を払って下さい。
6. ミシンやフットコントローラーの隙間からものを入れたり、差し込んだりしないで下さい。
7. 戸外で使わないで下さい。
8. 酸素ガス等の引火性のあるスプレーを使用している場所では使わないで下さい。
9. 裁縫中に布を引っ張ったり、押し込んだりすると、針をいため、針折れの原因となります。
10. 曲がった針は使わないで下さい。
11. 常にベルニナ純正の正しい針板をお使い下さい。不適切な針板を使うと針折れを起こすことになります。
12. 電源プラグをコンセントから抜く場合には、必ずまず電源スイッチでオフ«0» (off)にして下さい。コードを引っ張らずに、プラグを持って抜いて下さい。
13. 糸、針、ボビン、押え金等を交換する際には、ミシンの電源スイッチを切って下さい。
14. ミシンカバーを外したり、注油、又は説明書に従って調整する場合には、必ず電源プラグをコンセントから抜いて下さい。
15. このミシンには二重絶縁構造が採用されています（アメリカ合衆国とカナダを除く)。交換する時には純正品をお使い下さい。二重絶縁構造の家電製品のサービスに関する情報をご参照下さい。

二重絶縁について

二重絶縁構造の家電製品では、アースの代りに二重の絶縁構造が採用されています。二重絶縁構造の家電製品のサービスは特別の注意を要し、知識のあるサービス担当者のみ扱うことが出来ます。交換部品は必ずオリジナル部品と同じものが使われなければなりません。
二重絶縁構造の家電製品は≪二重絶縁≫又は≪二重絶縁構造≫と表示されています。
このマーク ⧈ が製品に表示されている場合もあります。

ご注意！

誤った使い方の結果発生した製品不良に関しては保証の対象とはなりません。
このミシンは家庭でのご使用向けに作られています。
このミシンは電磁波適合法令（EMC）に関するEU法令指示2004/108/ECに準じる製品である。

説明書は大切に保管して下さい

ご注意：
最新の説明書は **www.bernina.com**
で入手できます。

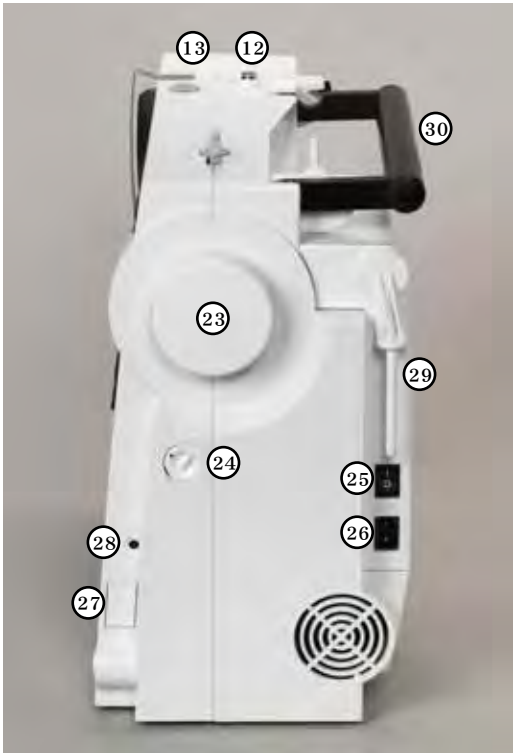
環境保護について
ベルニナ社は環境保護を遵守します。私たちは環境汚染を最小限にくい止めるためにデザインや製造方法などの改善に努めています。

製品の寿命に到達した時にはその国の環境保護法に則って処分されるようにお願いいたします。家庭ごみと共に処分することは止めて下さい。判らない時はお買い求めのベルニナ正規販売代理店にお問い合わせ下さい。

安全にご使用いただくために　2
各部の名称　6
標準アクセサリー　8
押え金の種類　9
別売りオプションアクセサリー　10
ミシンを準備する　12
ミシンの基本操作　20
各種のステッチ　23
縫ってみる　24
針と糸について　31
日常の点検保守　33
困ったときに　34
索　引　35

各部の名称

ミシン前面



ミシン右側面

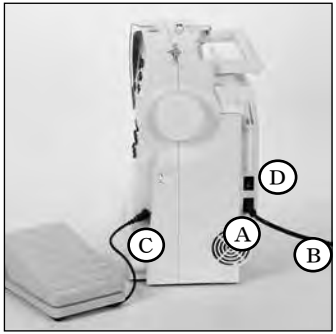
1. 釜カバー
2. 針板
3. アタッチメント取り付け用ねじ穴
4. ソーイングテーブル取り付け用突起
5. 押え金
6. 針止め
7. ビルトイン糸通し機
8. 糸ガイド
9. 針元返し縫いボタン
10. 天びん安全カバー
11. 天秤
12. 下糸巻き糸案内
13. ダイヤルテンション
14. 液晶画面
15. 針停止位置選択ボタン
16. 1/2スピードボタン
17. 自動下糸巻き装置、糸切り
18. 振り幅調節ボタン
19. 針基線選択ボタン
20. 送り調節ボタン
21. クリヤー・削除ボタン
22. 模様選択ボタン
23. はずみ車
24. 送りバランス微調節つまみ
25. 電源スイッチ
26. 電源プラグ差し込み
27. 送り歯ドロップ操作ボタン
28. フットコントローラー用コンセント差込口
29. 垂直糸立て棒（折りたたみ式）
30. キャリングハンドル
31. 糸立て棒（水平）
32. 後部糸案内
33. アクセサリーボックス取り付け用フック
34. 押え上げレバー
35. 糸切り

ミシン背面

アクセサリー

- 布カバー
- アクセサリーバッグ
- ボビン2個（1個はミシンに装着）
- 押えシャンク、押え底5個
- 針アソートメント
- シームリッパー
- ブラシ
- 糸駒カバー3種類
- 糸駒クッション
- オイル
- フットコントローラー
- 電源コード
- L型トルクスレンチ
- 製品保証書

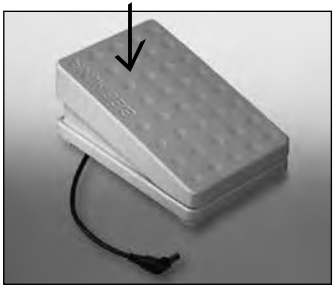
電源コード



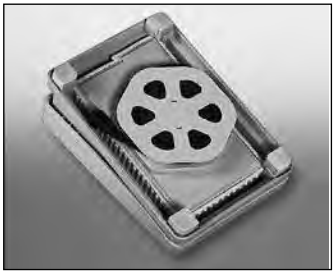
電源コード
・プラグＡをミシンに接続し、
・プラグＢを電源に差し込みます。

フットコントローラー用コード
・プラグＣをミシンに接続します。

フットコントローラー



フットコントローラーは、縫うスピードを調節します
ペダルを踏んでスピードを調節します。
＊フットコントローラーは国により仕様が異なります。



電源コードを収納する
・フットコントローラーの裏側に巻き取り、
・プラグは、波形隙間に差し込みます。

ご使用には：
・電源コードを巻き取り部から取り出して使います。

電源スイッチ
電源スイッチは、ミシンのはずみ車の側にあります。
1　電源がオンです。
0　電源がオフです。

ソーイングランプは、電源スイッチのオン・オフで点灯・消灯します。

「安全にご使用いただくために」のページをご参照下さい。

標準スナップオン式押え金

押え取り付け用シャンク
スナップオンタイプソール用

1　標準ジグザグ押え
全ての実用縫いに

2　オーバーロック押え
オーバーロック、ヘム縫い、エッジ縫い、幅の狭いサテンステッチなどに

3　ボタンホール押え
ボタンホール縫いに

4　ファスナー押え
ファスナー付けに

5　まつり縫い押え
まつり縫いやエッジ縫いに

全ての押え金はベルニナ式の押え金でも準備されています。

ソーイングテーブル
（日本仕様では標準装備）

作業スペースを広げます

取り付け方
・針と押え金を上げます。
・フリーアームにそって、強く押し込んで固定します。

取り外し方
・針と押え金を上げて、
・左方向に強く引いて、
・取り外します。

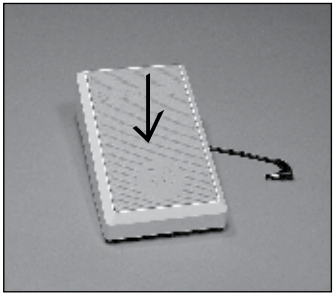
定規
テーブル上の定規の０は、直線縫いで針基線が中央を基準としています。

布ガイドを使う
・テーブルの手前裏側の溝に沿って、右又は左方向からスライドさせて差し込みます。
・布ガイドを使うと、テーブルの幅いっぱいに布をガイドすることができます。
・ソーイングテーブル用の布ガイドの取り付け、又は取り外し時には、必要ならば押えシャンクを取り外します。

ソーイングレンズセット

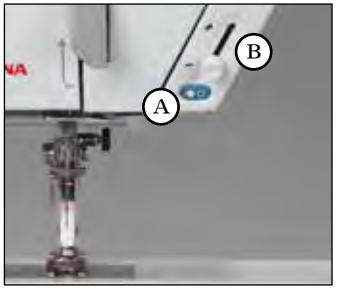
ソーイングレンズ(オプション)
・ソーイングレンズは針目を大きく映し出し、大変便利です。

フットコントローラー



ソーイングスピード
• フットコントローラーの踏み込み加減によってコントロールできます
• その状態で、かかとを軽く1回踏み込むと、針を今ある位置とは反対の、上または下に動かすことができます

手元スタート･ストップ装置
（ディーラーオプション）



手元スタート・ストップ装置は指先でミシンをスタート､ストップ、そしてスピードの調節を可能にします。
・ボタン A を押すとスタートします。
・ B のボタンをスライドさせて最高スピードを調節します。
・再度ボタン A を押すと止まります。

ご注意：
フットコントローラーが接続されている場合は、手元スタート・ストップ装置は作動しません。

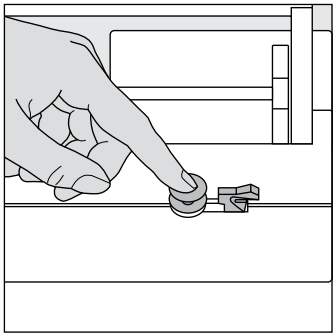
蛍光灯ソーイングライト
（ディーラーオプション）

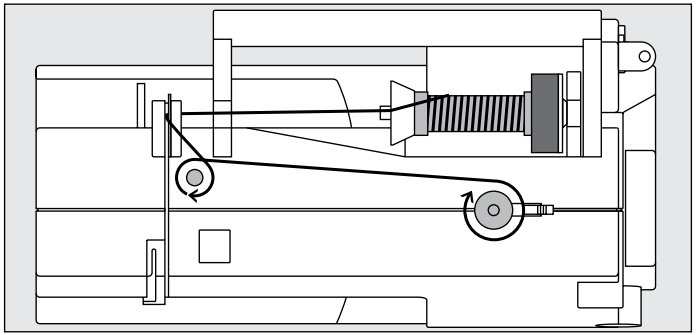
蛍光灯ソーイングライト（国によりオプション）
・インバーター式蛍光灯ソーイングライトは、目に優しい光で明るく手元を照らします。

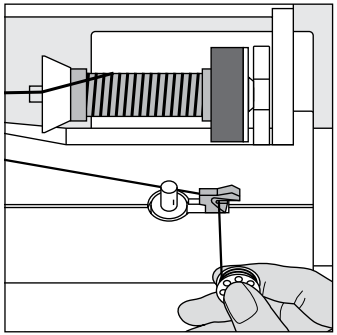
ご注意：
蛍光灯ソーイングライトの交換はベルニナ正規販売代理店でのみお取り扱いしております。

⚠ 「安全にご使用いただくために」をご一読下さい。

下糸を巻く







下糸を巻く

・電源スイッチをオンにします。
・空のボビンを糸巻き軸にセットします。

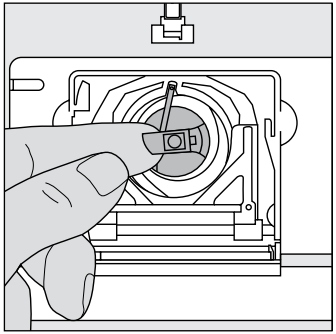
ご注意：
折りたたみ式の垂直糸立て棒（15ページ参照）を使って糸巻きをする時はスピードを抑え気味にして下さい。

・糸をまず下糸巻き糸案内に、時計回りにひと巻きし、
・空のボビンに数回巻きつけます。
・ボビン押えをボビン側に倒します。
・フットコントローラーを踏み込みます。
・ボビンが一杯になれば、モーターは自動的に止まります。
・ボビンを外します。

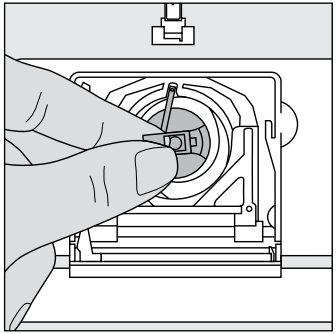
糸切り

・下糸巻き糸切りで糸を切ります。

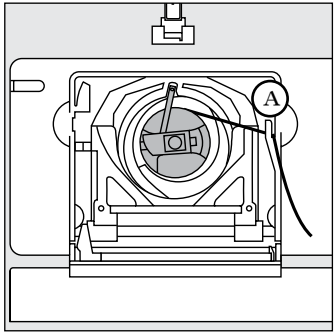
ボビンケース



ボビンケースを取り出す
・針を上げ、
・電源をオフにします。
・釜カバーを開け、
・ボビンケースの爪の部分を左手でつまんで、
・取り出します。



ボビンケースを装着する
・爪の部分を左手でつまみ、
・つのを上に向けて、
・釜に差し込みます。
・カチッと音がするまでしっかりと差し込みます。
・釜カバーを閉めます。

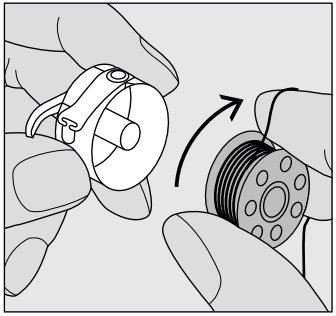


下糸カッターで糸を切る
・ボビンケースを装着したら、
・糸切りAに、余分の糸を当てて切ります。
・釜カバーを閉じます。

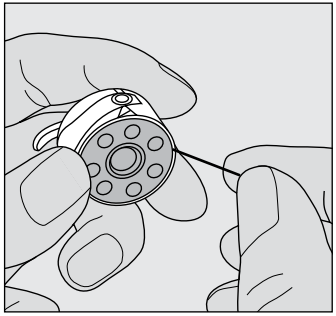
メモ：
下糸を持ち上げる必要なく、最適な下糸の長さで縫い始められます。

⚠ 「安全にご使用いただくために」の項をご参照下さい。

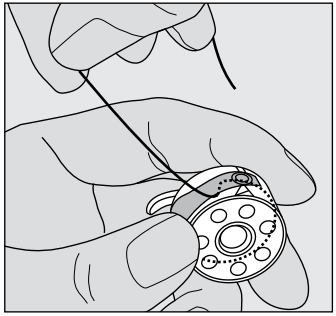
ボビンをセットする



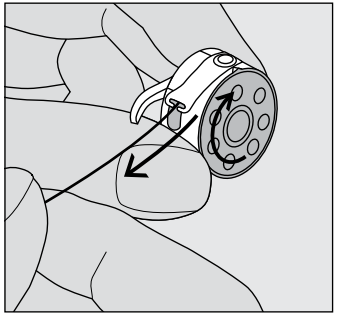
糸の巻き方向が時計回りになるように、注意してボビンを入れます。



糸を時計と反対方向に引きながら切り溝の中に入れ、

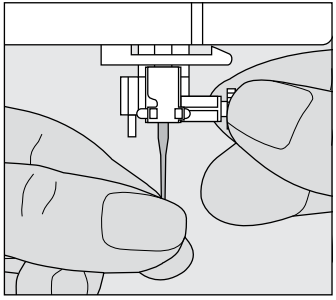


糸をばねの下を通して、時計と反対方向に引っ張ります。



糸がバネの下を通って、だ円形の窓から出てくるように通します。
糸の端を引っ張ると、ボビンが時計回りに回ることを確かめて下さい。

針の交換

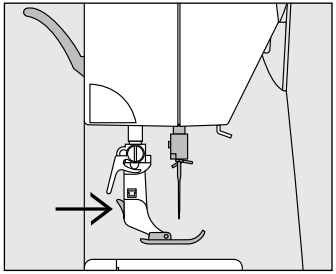


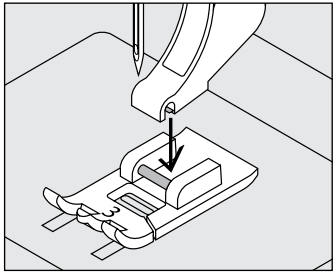
針を取り外す
- 針を上げ、
- 電源をオフにしてから、
- 押えを外します。
- 指先でネジを緩め、
- 針を下に引いて外します。

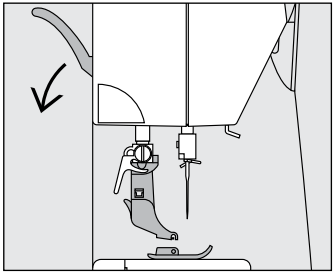
針を取り付ける
- 針の平らな側を後ろに持ち、
- 取り付け穴に針が止まるまで差し込んで、
- 指先でネジをしっかり締めます。

「安全にご使用いただくために」のページをご参照下さい。

押え金を交換する





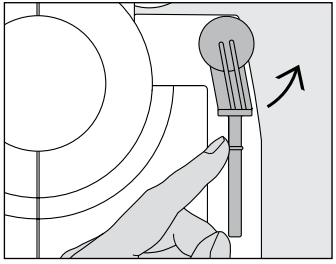


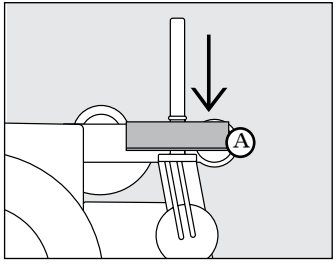
押え金を取り外す
・針と押え金を上げます。
・電源をオフにします。
・シャンク上の矢印のボタンを押して、押え部分を取り外します。

押え金を取り付ける
・押え部をシャンクの真下に置きます。
・押え止めレバーを下げます。

「安全にご使用いただくために」のページをご参照下さい。

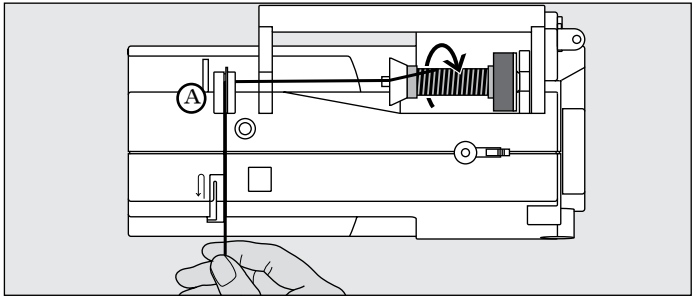
垂直糸立て棒を使う

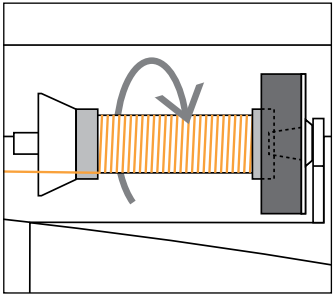


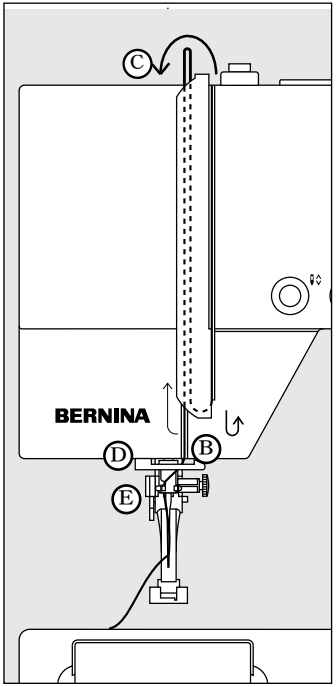


折りたたみ式糸立て棒
・ミシンの後ろ側右手についています。
・２本以上の糸を使ってソーイングするときに使います。
・くるりと後ろへ回転させてカチッと止まるまで起こします。
・大きな糸こまを使うときは糸こまクッション A を右図のようにセットします。

上糸をかける





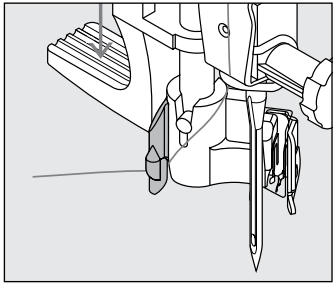


糸こまをセットする

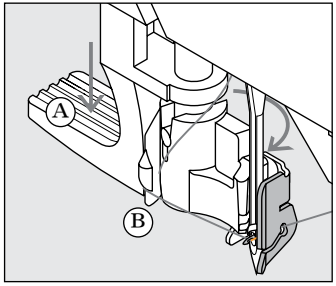
・針と押え金を上げて、
・電源をオフにします。
・糸立て棒にクッション付きの糸こま土台を取り付けます。
・糸こまが時計方向に回るようにセットし、糸こま押えで固定します。
（糸こま押えのサイズは、糸こまの直径に合うものを選びます。）
・ミシン上部の糸案内Ａに糸を通します。
・次に、上糸テンションダイヤルに通して、
・天びん安全カバーの右側に沿ってＢから、
・Ｃの順に図のように糸を通し、
・最後にＤ、Ｅそれぞれの糸掛けに通します。

「安全にご使用いただくために」のページをご参照下さい。

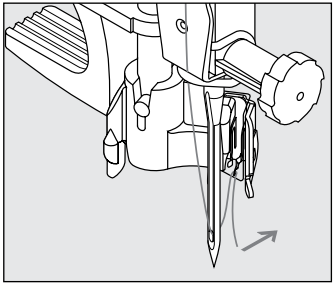
上糸通し器



フックに糸を掛ける
・針を上で停止する。
・押え金を下げます。
・上糸を右手で持って、フックに図のように掛けます。



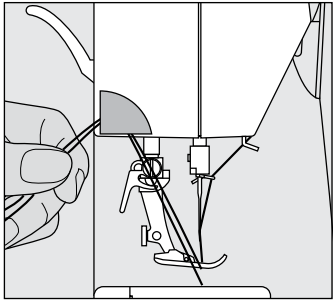
糸通し器のレバーを押し下げる
・レバーAを指で押し下げます。
・同時に糸をフックBの周りに巻きつけるようにします。



糸を針に押し付ける
・糸を矢印のように前方から後方へ、針に押し付けるようにして、、
・糸を針の右側に張り出してきたガイド板の溝にはめ込んで放します。

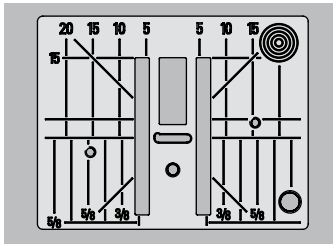
指をレバーから放す
・レバーから指を放します。

糸切りで糸を切る



ミシンの左側面の糸切り
・上糸と下糸両方を、前から後ろの方向へ引き、糸切りに掛けます。
・そのままで縫い始めると、糸は自動的に外れます。

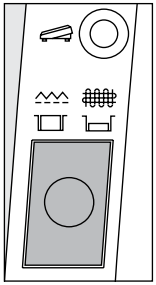
針板

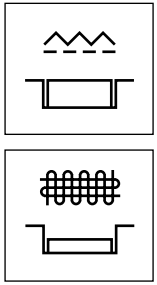


針板のシームガイドライン
- 針板の表面にはミリ(mm)とインチ表示で布ガイド用の線が水平、垂直、斜めに刻印されています。
- 刻印されたラインは布地を置く位置の目安として、またトップステッチに便利です。
- 水平の目盛り線はコーナーの仕上げやボタンホールに便利です。
- 斜線はキルティングに便利です。
- 垂直の目盛り線は針位置がセンターにある場合の針からの距離です。
- 針基線が中央の場合、針の位置がセンターです。
- 目盛りは針の中央から左右対称に刻印されています。

ご注意：針板の交換方法は33ページを参照。

送り歯と布送り

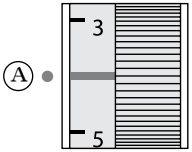




操作ボタンははずみ車の手前下にあります
- ボタンが上がっている状態では送り歯は上にあり、普通縫い用の設定となっています。
- ボタンを押し込むと、送り歯が下がり、繕い縫いや刺しゅう等、フリーハンド縫いの設定となります。

送り歯と縫い目の関係
- 針が一針縫うたびに送り歯が一回動き、布を送ります。
- 一針の長さは送り歯の動きにより調節できます。
- ボタンホールのように目の詰まったステッチを縫うときには布の動きはごくわずかになります。

上糸テンションの調節



基本縫い
・図のＡの示す赤いマークにセットしておけば、上糸の調節は必要ありません。
・特殊な縫い方の場合は、布の種類によって、テンションを調節します。

糸調子はスイス・メトラー社製ポリエステル糸100番2本撚りを使い、工場でベストの状態にセットされています。

特殊な糸を使用する場合には、上糸テンションの調節が必要です。また、糸に合った針を選ぶことも大切です。

例

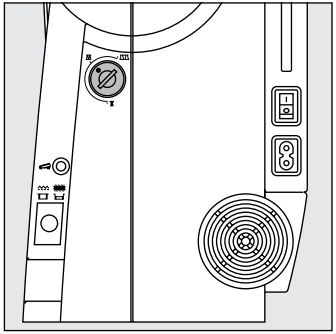
糸の種類	テンション	針	
メタリック糸	約３	130Ｎ	90/14番
		メタフィル針	80/12番
ナイロン透明糸	２～４		80/12番

バランスの良いステッチテンション

上糸テンションが強すぎる
・下糸が布表に引っ張られて出てきます。
・ダイヤルを３～１に緩めます。

上糸テンションが弱すぎる
・上糸が布裏側に引き込まれます。
・ダイヤルを５～１０にセットします。

送りバランス微調整

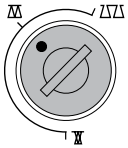


ミシンは工場から出荷される前にスイス・メトラー社製ポリエステル糸100番/2本縫りを使ってテストされ、完全に調整されています。

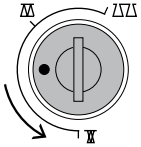
模様ステッチは、布や糸のタイプ、また安定紙や芯地の組み合わせにより、針目がつまり過ぎたり、粗過ぎたりして、模様が乱れることがあります。

バランス機能を使えば生地やソーイング条件にあったソーイングが可能になります。

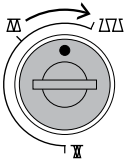
用途：
例えばジャージでのネットステッチ、飾り縫い、文字やボタンホールなどの実用縫いに使います。



通常の位置



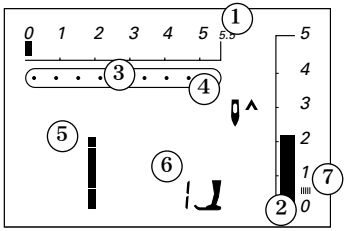
より密な送りの位



より粗めの位置

ご注意：
バランスを調整したあとは、必ずつまみを標準の位置に戻して下さい。

液晶画面



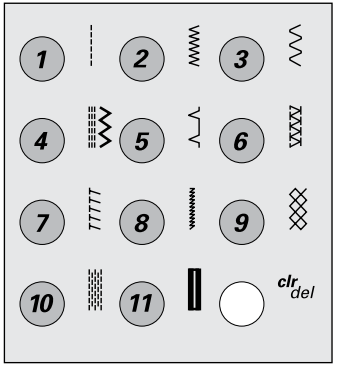
液晶画面を見る

1. 振り幅の標準セットが点滅しています。
2. 送り長さの標準セットが点滅しています。
3. 針基線の表示　（９ポジションあります）
4. 針停止位置表示　通常は上で停止します。
5. 模様縫いの番号（左図では1番を表示）
6. 標準の押え金の番号（左図では1番を表示、特殊な縫い方で使う押えの番号は表示されません）
7. サテンステッチ：送りの小さな密度の高いジグザグ縫いのセッティング

ステッチメモリー機能

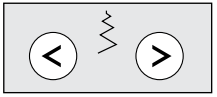
- ステッチの送り、振り幅、針基線を変えるとその情報を自動的に記憶するメモリーが全てのステッチに付いています。
- 例えば、ジグザグステッチで送りや振り幅を変えて縫います。
- 次に直線縫いを選んで縫います。
- 次に、先のジグザグ縫いを選ぶと送りと振り幅は変更したままになっています。クリヤーボタンでクリヤーするか、電源を切ると標準に戻ります。

ステッチ選択ボタン

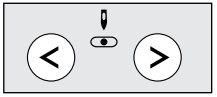


模様を選んでみる

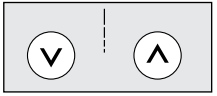
・ステッチ番号1-11
・1から11の番号ボタンを押します。標準の送り長さ、振り幅、針基線が液晶画面に表示されます。



振り幅を変えてみる：ボタンを押すたびに、又は押し続けると振り幅が変わります。
・左ボタン：　振り幅を小さくします。
・右ボタン：　振り幅を大きくします。
・標準の振り幅が点滅で表示されています。



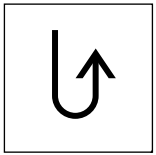
針基線を変えてみる
・左ボタン：　針基線が左側に移動します。
・右ボタン：　針基線が右側に移動します。



送り長さを変えてみる：ボタンを押すたびに、又は押し続けると送り長さが変わります。
・左ボタン：　送りの長さを短くします。
・右ボタン：　送りの長さを長くします。
標準の送り長さが点滅で表示されています。

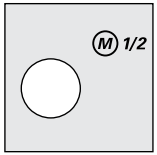
各種の機能を使ってみる

機能ボタンを押すと、液晶画面にその機能マークが表示され機能がスタートします。
機能マークを画面から消すと、機能は解除されます。

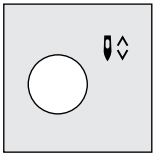


針元返し縫いボタンを使う
ボタンを押している間、ミシンは後進縫いします。
（最大3ミリ）
・ボタンホールや繕い縫いのプログラムに使用します。
・5番のステッチで縫い終わりを指定します。
・ソーイング中に留め縫い機能として使います。手動での留め縫いにも使用します。

連続返し縫い機能を使う
・ボタンを続けて2回すばやく押します。
・連続して後進します。
・連続返し縫いを止めるには2回続けてすばやく押します。

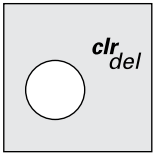


1/2スピード機能を使う
・ボタンを押すと画面上に1/2と表示されます。
・ソーイングスピードが1/2に制御されます。
もう一度押すと解除されます。



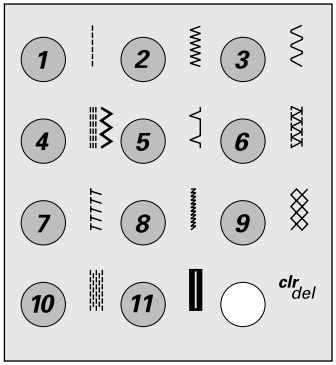
針上下停止機能を使う
・通常針は上で停止します。
・ボタンを押すと、
・画面上で針の右側に表示された矢印の向きが変わります。
・下向き矢印：針は常に一番下で止まります。
上向き矢印：針は常に一番上で止まります。

ご注意：
ボタンを長押しすると、針を下げたり、上げたり出来ます。



クリヤー/削除（clr/del）
・ステッチを標準設定に戻します。
・使っている機能を解除します。
例外：
・針上下停止機能
・1/2スピード機能

各種のステッチ



1　直線縫い
伸縮性のない生地で、あらゆる直線縫いに

2　ジグザグステッチ
あらゆる生地で、薄地でのジグザグ縫いや、ゴムひもやレースの縫い付けに

3　ランニングステッチ
あらゆる生地で、繕い縫い、パッチの縫い付けや補強縫いに

4　トリプル（直線・ジグザグ）ステッチ
厚くて丈夫な生地で、補強縫いに

5　まつり縫い
あらゆる生地で、くけ縫いやソフトなジャージ、薄地のシェルタック、飾り縫いに

6　ダブルオーバーロック
あらゆるニット地で、縫うと同時に縁の始末ができる

7　ストレッチオーバーロック
片方が開いたストレッチステッチで、伸縮性に富み、タオル地や特に伸縮性のある生地に

8　スーパーストレッチステッチ
スーパーストレッチ生地の縫い合わせに

9　ネットステッチ
ほとんどのインターロック伸縮地、滑らかな生地で、飾り模様やヘム縫いに

10　自動繕い縫い
薄手から中厚手の生地で、自動的にかがり縫いをする

11　ボタンホール縫い
薄手から中厚手の生地で、ブラウス、シャツ、ズボン、寝具等に

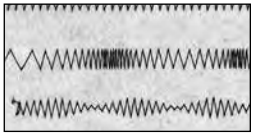
直線縫い　No.1

押え金は標準ジグザグ押え#1、又はまつり縫い押え#5を使います。

端縫い
- #1の押えでは布端に押えの端を揃えて置き、針基線を適当に移動して直線で縫います。
- #5の押えでは布端を押えのガイド板の左側に揃えて置きます。
- 針基線を適当に移動して直線で縫います。

へり縫い(インナーエッジ)
- 針基線を右端に移動します。
- エッジの折り返しを押え#5のガイド板の右側に沿わせます。
- エッジに沿って適当な針基線を選んで直線で縫います。

ジグザグステッチ　No.2



A：振り幅を変えて縫った例

B：送りを変えて縫った例

C：布端をかがった例

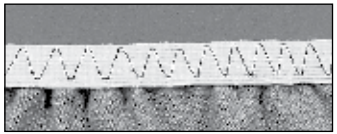
押え：標準押え１番

ジグザグステッチ
・あらゆる生地に適用できます。
・布端のかがりや仕上げに。
・飾り縫いに。

サテンステッチ
・送りを小さくして、密度の濃いステッチを縫います。
・振り幅は必要に応じて調節します。縫いながらの調節も可能です。

布端を仕上げる
・布端を押え金の中央に合わせます。
・針が左側で布に、右側で布の外側に落ちるように縫ってゆきます。
・布端が巻き込まない程度の振り幅と送りにセットします。
・薄地には100-150番位の細い番手の糸を使います。

ランニングステッチ　No.3



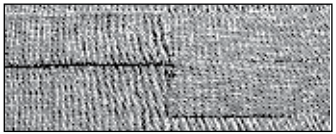
押え：標準押え１番

幅の広いゴムひも
・スポーツウエアやランジェリーに

準備
・必要な長さにゴムひもをカットします。
・縫い付ける生地とゴムひもを4等分して印をつけます。
・印を合わせて生地とゴムひもにまち針を打ちます。

縫い方
・ゴムひもを生地の長さに合うまで引っぱります。
・縫い終わったら、ゴムひもからはみ出た生地を切りそろえます。

トリプルステッチ　No.4



押え：標準押え１番

縫い代を開く
・デニムやコーデュロイのような固く、しっかりとした生地では縫い代を開きます。
・耐久性を求める場所に適しています。

飾り縫い
・送りを大きくして飾り縫いに使います。

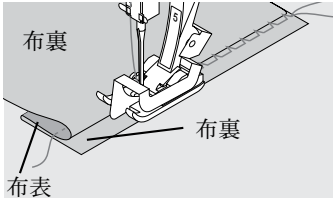
メモ：
送りを4にセットするのが一番見栄えするステッチになります。

まつり縫い　No.5

押え：まつり縫い押え５番

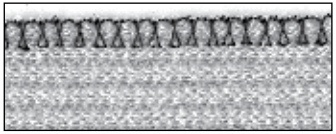
まつり縫い
・中厚手の木綿、ウールおよび混紡に目立たない縁縫いをするのに最適です。

準備
・布端を切りそろえ、
・手縫い同様にあらかじめ縁かがりをします。
・その後、図のように押え金の下に生地を置きます。



縫い方
・手縫いの場合同様、針が折り目の端ぎりぎりをとらえるように注意します。
・生地に合わせて振り幅を調整します。
・10cm ほど縫ったら、生地の裏表をチェックして、必要であれば再度振り幅を調整します。

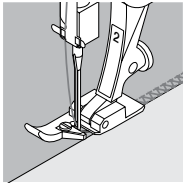
ダブルオーバーロック　No.6



押え：標準押え１番
**　　またはオーバーロック押え２番（オプション）**

オーバーロック押え２番は特別にオーバーロック用にデザインされたもので、押えの裏側のピンが布端を巻き込まないように工夫されています。

用途
目の粗いニット地やジャージにオーバーロック縫い



縫い方
・オーバーロック押え下側のピンの部分に裁ち目を合わせるようにして、進めます。
・布端を巻き込まないように縫うには、ピンを布端の外側に合わせます。

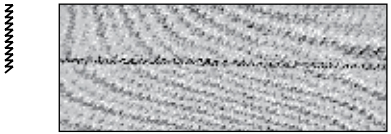
ストレッチオーバーロック　No.7

押え：標準押え１番

オーバーロック縫い
・ 柔らかいニット地や、タオル地の様な粗い生地に適しています。

縫い方
・ 布端に沿って縫ってゆきます。
・ 糸が布端をロック縫いします。

スーパーストレッチステッチ　No.8

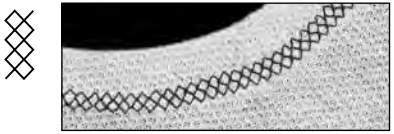


押え：標準押え１番

縫い代を開く
・ 非常に伸縮性の強いニット地に。
・ スポーツウエアや水着などのレジャーウエアに。
・ 縫い目がフラットでスムーズな仕上がりになります。

厚地を縫う時は、布端を巻き込まないように布端から1cm くらい内側を縫って、後で縫い代をカットして下さい。

ネットステッチ　No.9



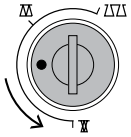
押え：標準押え１番

飾り縫いで襟付け
あらゆる種類のジャージ地（木綿、ウール、化繊および合繊）に適しています。

準備
襟周りを１cm内側に折ります。

縫ってみる
・表側から襟の端に沿って縫います。
・裏側で縫い目からはみ出た縫い代を切り取ります。

送りバランス微調整

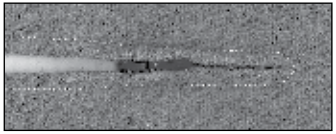


ステッチが広がってしまう場合

ステッチが詰まり過ぎる場合

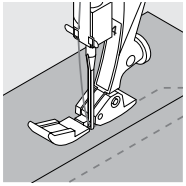
ご注意：
・縫い終わったら、送りバランス微調整つまみを標準の位置に戻すのを忘れないように。

ファスナー付け　（直線縫い　No.1）



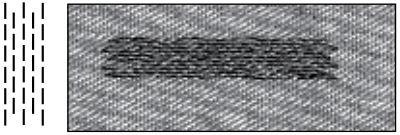
押え：ファスナー押え４番

準備
・布端が、ファスナーの中心上で合うように、しつけをかけておきます。



縫い方
・ファスナーの両側を下から上に向かって縫います。
・ファスナーの右側を縫う場合は左基線で、左側を縫う場合は右基線で縫います。
・押えの端がファスナーの歯に沿って動き、また針はファスナーのすぐそばに落ちるように縫います。

自動繕い縫い　No.10



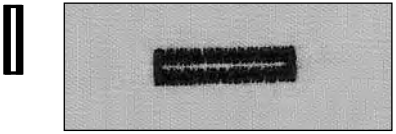
押え：標準押え 1 番

ほころびや擦り切れた部分を、すばやくしっかりと繕います。

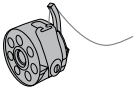
標準押え1番で縫ってみる
・針を左上の縫い始めに刺します。
・最初の列を適当な長さで縫います。
・針元返し縫いボタンを押すと、長さが記憶されます。
・続けて縫います。ミシンは自動的に止まります。

大きな部分を繕いたい
・順番に繕う場所を押えの下に移動して全体をカバーします。
・記憶した長さを取り消すには、クリヤーボタン（clr/del）を押します。

ボタンホール縫い　No.11



押え：ボタンホール押え No. 3



準備
・下糸をボビンケースのつのに通します。
・縫いたいボタンホールを選びます。
・ボタンホールを縫う位置に印をつけます。

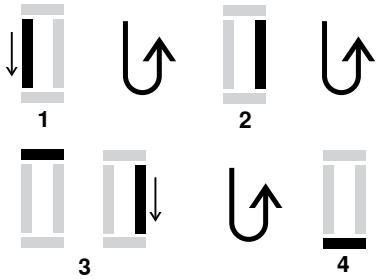
試し縫い
・必ず実際に使用する生地と接着芯、又は安定紙を使って試し縫いします。
・縫いたいボタンホールを選択します。
・実際に縫うときと同じ生地の目の方向に縫います。
・ボタンホールを切り開きます。
・ボタンを通してみて、必要ならばもう一度試し縫いしてサイズを調整します。

各ステップは、画面に点滅して表示されます。

マニュアル式ボタンホール縫いは、一つだけ特殊なサイズのボタンホールを縫ったり、既存のボタンホールの補修などに便利です。
不要なステップを飛ばしたり、同じステップを繰り返すことも可能です。
マニュアル式で縫ったボタンホールは記憶させることはできません。

ボタンホールを縫う

左右両方の穴かがりを同じ方向に縫います



1. 最初の穴かがりを縫い、適当な長さでミシンを止め、針元リバースボタンを押します。

2. 右側の穴かがりを後進で縫い進みます。最初の位置でミシンを止め、針元返し縫いボタンを押します。

3. 上の環止めを縫い、右側の穴かがりを縫います。ミシンを止めて針元リバースボタンを押します。

4. 自動的に留め縫いをして止まります。

ボタンホールの調整方法
穴かがりの幅を変えるには、
・振り幅を調節して下さい。

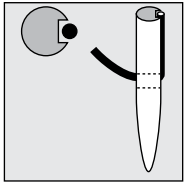
縫い目の送り長さを変える
・送りの長さの変更は常に左右の穴かがりの縫い目の長さに影響します。(密、粗、いずれの場合でも)
・送り長さを調節した後、再度試し縫いしてボタンホールを記憶させて下さい。

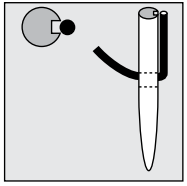
送りバランスの微調整
ボタンホールでは両側を同一方向に縫いますので、バランスを調整すると、両側の穴かかがりを均等に変更します。

ご注意：
ボタンホール縫いが終わったら、バランス調節つまみを必ず標準の位置に戻して下さい。

ミシン針に関する重要事項

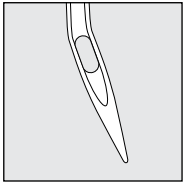
ミシン、針そして糸
ベルニナミシンは１３０／７０５Ｈというタイプの家庭用ミシン針を使用します。
針と糸
市販されているミシン針は、たいてい７０番（８番）～１２０番（１８番）です。針が細いほど、番号も小さくなります。右の表は、どの糸にはどの針が最適かを示しています。針は、必ず糸に合ったものを選びましょう。
不測のトラブルを避けるため、ベルニナ純正針のご使用をお勧めします。

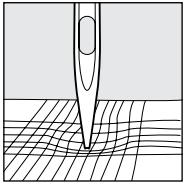

縫うとき、糸は、針の溝に納まらなければなりません。

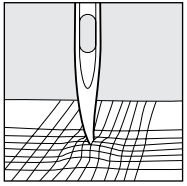

糸に対して針が細すぎると、糸は溝に納まらず、縫い目が乱れます。

針（欧米式） （日本式）	７０ １０	８０ １２	９０ １４	１００ １６	１１０～１２０ １８～２０
繕い縫い用糸	○	○			
刺しゅう糸		○			
木綿糸		○	○		
化繊糸		○	○		
太糸、化繊糸			○	○	
ボタンホール 飾り縫い糸				○	○

針と布
針は必ず正常な状態にあるものを使用して下さい。
次のような針をご使用になりますと、縫い目を乱す原因となります。


曲がった針


先が欠けた針


先がつぶれた針

布地に合わせて、針を使い分けることにより、大変縫いやすくなります。
ベルニナでは、様々な針を用途に合わせて取りそろえております。

針一覧表	針の記号	針先形状	用途	実際の形状	針のサイズ
標準針	130/705H	標準の針先	汎用針、化繊や天然繊維の織地、例えば、リネン、シフォン、オーガンジー、ウール、ベルベットなど		60–100
特殊針	130/705H-SES	中細ボールポイント	絹、化繊、綿、薄地のウール地、薄手のニット地		70–90
	130/705H-SUK	中太ボールポイント	化繊や天然繊維の厚手のニット地		80–110
	130/705H-S	中太ボールポイント	特殊な伸縮地用		90–100
	130/705H-J	極細先	綾織、作業衣、麻、デニム、キャンバス地。目のつんだ生地のみ。		90–100
	130/705H-LR + H-LL	カッティングポイント	各種天然皮革、合成皮革、ビニールコーティング地、プラスチック		90–100
二本針	130/705H-DO	針間隔（ミリ）1.6/2.0/2.5/3.0/4.0	伸縮地のヘム縫い、ピンタック、飾り縫い、キルティング		70–100
三本針	130/705HTRI	巾 2.5/3.0 ミリ	飾り縫い、キルティング		80
ウイング針	130/705H	巾 2.0 ミリ	綿ローンや綿オーガンジー等の織りのゆるい薄地でヘムステッチやレース付け		100–120

クリーニングの方法

ミシンを極端に気温の低い部屋に置いている場合、使用の１時間位前から通常の気温の部屋に移しておいて下さい。

クリーニング
ご使用後、針板の下にたまった糸の毛羽やくずを掃除してください。
・電源をオフにし、押えと針を外して、開閉カバーを開きます。
・針板の右後ろ隅を人差し指で強く押さえて針板を浮かせます。
・持ち上げて外します。
・ブラシで掃除し、針板を元に戻します。

かまの掃除
・電源をオフにし､ボビンケースを取り出し､中釜ストップレバーを左側に押します。
・中釜押えカバーといっしょに黒い樹脂の中釜押えを手前に倒します。
・中釜を取り出します。
・大釜レース（溝）の回りをブラシや布で掃除します。その際、尖ったものを使用しないこと。
・中釜を戻し、中釜押えと押えカバーが確実にストッパーにはまるように閉じます。
・中釜が正しくセットされたかどうか、はずみ車を手で回してチェックします。ボビンケースを戻します。

液晶画面の掃除
濡れたソフトクロスで拭きます

注油について
・釜の掃除をされる度に純度の高いミシンオイル１～２滴を釜の周辺に注油されることをお薦めします。
・注油後は生地に油シミのつく可能性がありますので、はぎれで試し縫いしましょう。

重要：
絶対にシンナー等の溶剤の入った洗剤等は使わない事

重要：
「安全にご使用いただくために」をよく読んで作業して下さい。

トラブルの原因と対策

チェックポイント
・上糸、下糸が正しくかかっていますか。
・針が正しく取り付けられていますか。（平らな部分を後ろ側にします。）
・針は、針と糸の一覧表を見て、正しいものを使用して下さい。
・ミシンをきれいに掃除し、糸くずを取り除いて下さい。外がまの掃除も忘れずに。
・針は、針と糸の一覧表を参照して正しいものをご使用ください。31ページ参照。

上糸切れの原因
・上糸テンションが強すぎる。
・針は純正をお使いですか？
・針が正しく平らな方を後ろ側にセットされていますか？
・針先がつぶれていたり、または曲がっていたりしませんか？
・糸の品質が良くない。（こぶがある、ささくれている、古くて乾燥しすぎている等）
・針板の針穴や中釜の剣先に傷がついている。このような場合には、ベルニナ製品取扱店にご相談下さい。

下糸切れの原因
・下糸テンションが強すぎる。
・ボビンケースの中で、糸がからまってないか、ボビンを取り出し、チェックして下さい。
・針板の針穴に傷がついている。このような場合には、ベルニナ製品取扱店にご相談下さい。
・針先がつぶれている、または曲がっている。

故障かな、と思ったら次の要領でまずお調べ下さい。

目飛びの原因
・針が正しくない。（１３０／７０５Ｈの家庭用ミシン針を使用して下さい。）
・針先がつぶれているか、曲がっている、または正しくセットされていない。（針は止まるまで差し込んで止めて下さい。）
・布地に合った針を使っていない。（２４頁の表を参照して、適当な針を選んで下さい。）

針折れの原因
・針の止めネジの締め方が十分でない。
・縫い終わった後、布を手前へ引いてしまった。
・厚地を縫っていて、針が布地に刺さっている状態で布を押してしまった。
・質の悪い糸を使っていた。（糸よりが均一でない、こぶがある等。）

縫い目が乱れる原因
・上糸調節皿に糸くずが残っている。
・ボビンケースのテンションばねの内側に、糸くずが残っている。
・下糸をボビンケースのつのの穴に通したままになっている。
・押え金に糸がからまっている。
・糸かけが正しくない。（上糸と下糸をチェックして下さい。）
・糸こまカバーは糸こまのサイズに合っていますか？

ミシンが回転しないか、高速にならない原因
・下糸巻き装置がオンになっている。
・電源コンセントが正しく入っていない。
・電源スイッチがオフになっている。
・室温が低すぎミシンが冷え切って十分に機能しない。

インデックス

ア

アクセサリー 8–11
アクセサリーバッグ 8
アタッチメント取り付け穴 7

イ

糸 31
糸切り 12,13,17
糸立て棒 7,15,16

ウ

上糸を掛ける 16
上糸テンション調節 19
上糸通し機 17

エ

液晶画面 21

オ

送り長さ調節ボタン 21
送り歯 18
送り歯 ドロップ操作ボタン 7
送りバランス調節 20,28,30
送りバランス微調整つまみ 7
押え上げレバー 7
押え金 9
押え金の交換 15
押え金の表示 21

カ

返し縫い（針元返し縫い）ボタン 22
各部の名称 6–7
釜カバー 7

キ

キャリングハンドル 7

ク

クリーニングの方法 33
クリヤー/削除ボタン 22

サ

削除/クリヤーボタン 22

シ

ジグザグシステッチ 23,24
下糸カッター 12,13
下糸を巻く 12
自動繕い縫い 23,29
自動下糸巻き装置 7

ス

垂直糸立て棒(折り畳み式) 15
スタート・ストップ装置 11
ステッチ選択ボタン 21
ステッチの各種 23
ステッチメモリー 21
ストレッチオーバーロック 23,27
スナップオン式押え金 9
スーパーストレッチステッチ 23,27

ソ

ソーイングテーブル 10
ソーイングライト 11
ソーイングレンズセット 10

タ

ダイヤルテンション 7
ダブルオーバーロック 23,26

チ

直線縫い 23,24,28
注油 33

ツ

繕い縫い 23,29

テ

手元スタート・ストップボタン 11
電源コード 8
電源スイッチ 7
電源プラグ差し込み 7
天秤安全カバー 7

ト

トラブルの原因と対策 34
トリプル（直線・
ジグザグ）ステッチ 23,25

ヌ

布送り 18
布ガイド 10

ネ

ネットステッチ 23, 28

ハ

はずみ車 7
針 31,32
針板 18
針基線 7,21
針上下停止機能 22
針の交換 14
針元返し縫いボタン 7
針止めネジ 7

ヒ

標準アクセサリー 8,9
標準ジグザグ押え 9

フ

ファスナー押え 9
ファスナー付け 28
フットコントローラー 8,10
フットコントローラー用コンセント 7
振り幅調節ボタン 21

ヘ

別売りオプションアクセサリー 10,11

ホ

ボタンホール 29,30
ボタンホール押え 9
ボビン 12–14
ボビンケース 13
ボビンをセットする 14

マ

まつり縫い押え 9
まつり縫い 23,26

モ

モータースピード1/2調節 22
摸様選択ボタン 7

ラ

ランニングステッチ 23.25

レ

連続返し縫い機能 22

Imprint
Typesetting, Layout, DTP: Silvia Bartholdi
Graphics: Müller-Melzer ID, Kreuzlingen

© copyright 2010
BERNINA International AG, Steckborn

無断転載禁ず
技術の改善、機能の向上のためにミシンの機能、部品、そして付属品は通達無く変更する場合がございます。また、ミシンの機能及び付属のアクセサリーは国によって仕様が異なる場合がございますのでご了承ください。詳しくはベルニナ正規販売代理店にお問い合わせください。

2014/02 JA 033644.51.10

BERNINA

Mettler®